

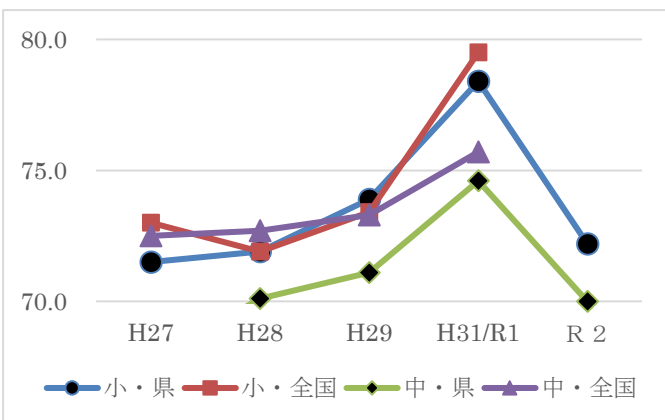
小・中学校 児童生徒質問紙調査

1. 昨年度調査で課題となった主な項目

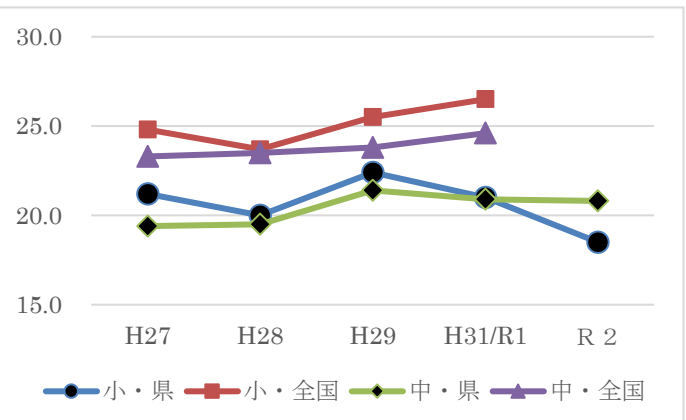
令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	回答割合		平成31年度		令和2 年度
				岐阜県	全国	岐阜県
2(13)	将来の夢や目標を持っている	①当てはまる	小中	64.3 43.3	65.9 44.9	52.3 40.3
2(14)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	①当てはまる	小中	78.4 74.6	79.5 75.6	72.2 70.0
8(45)	国語の勉強は好きだ	①当てはまる	小中	21.0 20.9	26.5 24.6	18.5 20.8
8(47)	国語の授業の内容はよく分かる	①当てはまる	小中	38.5 27.2	41.2 28.4	37.6 32.8
9(55)	算数（数学）の勉強は好きだ	①当てはまる	小中	37.1 32.2	40.6 30.7	36.5 32.4
9(57)	算数（数学）の授業の内容はよく分かる	①当てはまる	小中	47.8 37.6	49.3 34.8	49.0 39.4
9(59)	算数（数学）の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	①当てはまる	小中	40.1 —	41.4 —	34.4 —
10(67)	英語の勉強は好きだ	①当てはまる	小中	— 28.0	— 29.0	— 29.8

■注目したい項目

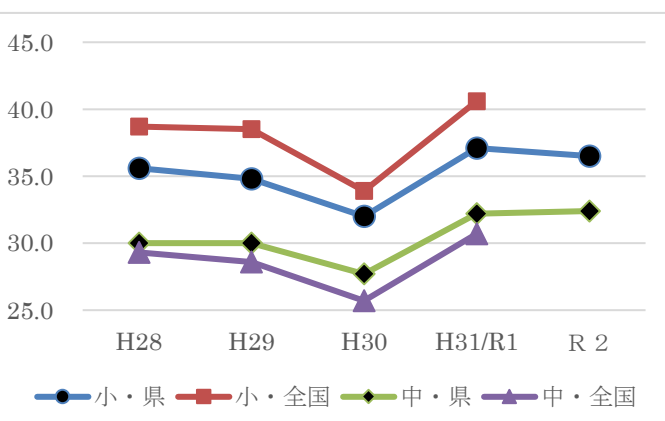
2(14) 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」



8(45) 「国語の勉強は好きだ」



9(55) 「算数（数学）の勉強は好きだ」



2(14)：「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、近年、増加傾向にあったが、今年度は小中学校ともに、一部の教育活動が制約を受ける中で、大きく下がっている。

8(45)9(55)：小・中学校ともに、「国語、算数・数学の勉強は好きだ」に「当てはまる」と回答する児童生徒の割合は、中学校の数学を除いて、全国平均を下回る数値で推移している。特に小学校の国語は減少傾向にある。

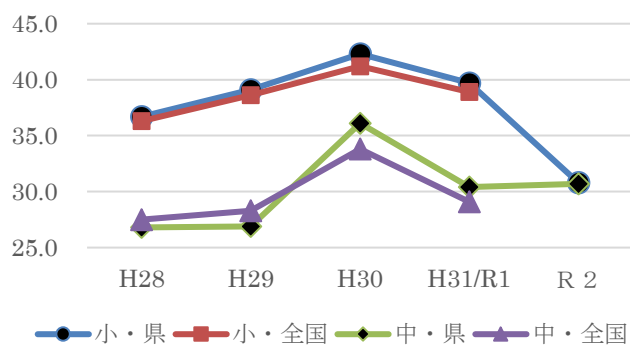
➡ 主体的な学習を生み出すためには、児童生徒が学習を好きになることが必要である。「好きな理由」「好きになれない理由」を問い、児童生徒の意識を踏まえた手立てを講ずる必要がある。

2. 児童生徒の状況の経年変化を捉えたい主な項目

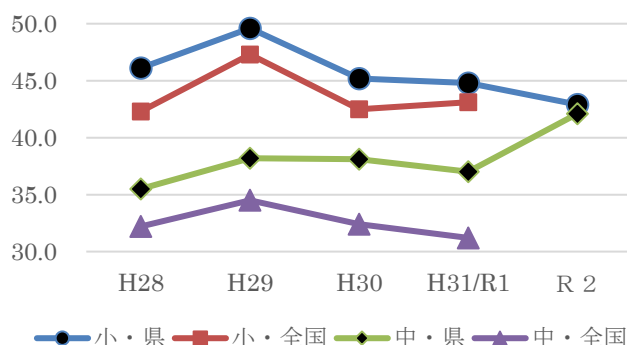
令和2 質問番号	質問内容	回答割合		平成31年度		令和2 年度
				岐阜県	全国	岐阜県
①(1)	朝食を毎日食べている	①している	小 中	88.8	86.7	86.5
				83.9	82.3	82.0
①(4)	家の人と学校での出来事について話を する	①している	小 中	49.6	50.1	46.7
				47.3	46.4	46.9
②(11)	自分には、よいところがあると思 う	①当てはまる	小 中	39.7	38.8	30.8
				30.4	29.0	30.7
②(12)	先生は、あなたのよいところを認めてく れていると思う	①当てはまる	小 中	44.8	43.1	42.9
				37.0	31.3	42.1
②(18)	いじめは、どんな理由があってもいけ ないことだと思う	①当てはまる	小 中	86.1	85.0	84.1
				78.2	78.3	82.6
③(20)	家で自分で計画を立てて勉強をして いますか	①している	小 中	39.7	33.1	35.1
				17.2	14.9	24.8

注目したい項目

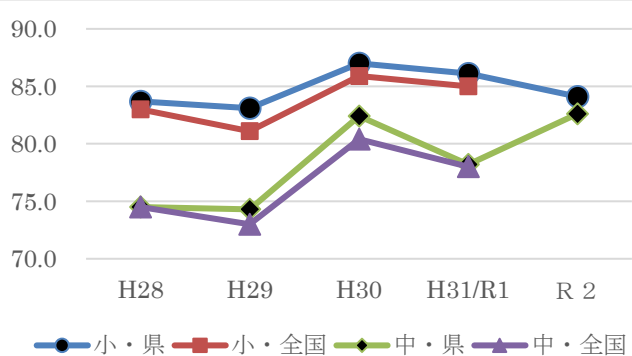
2(11) 「自分には、よいところがあると思う」



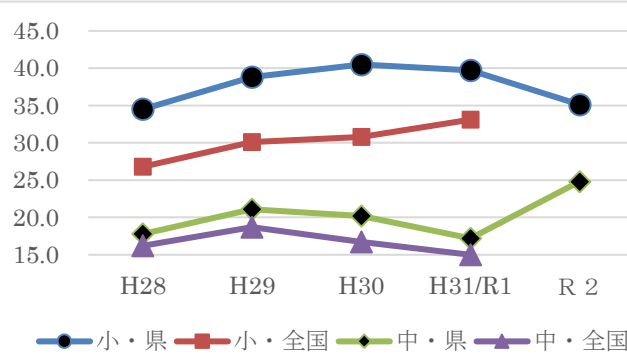
2(12) 「先生は、あなたのよいところを認めてく
れていると思う」



2(18) 「いじめは、どんな理由があっても
いけないことだと思う」



3(20) 「家で自分で計画を立てて勉強をして
いますか。」



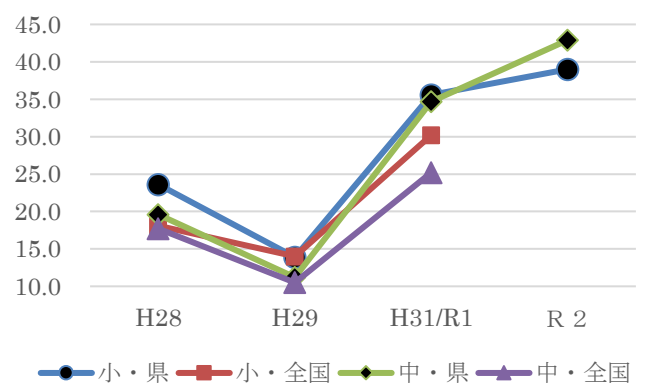
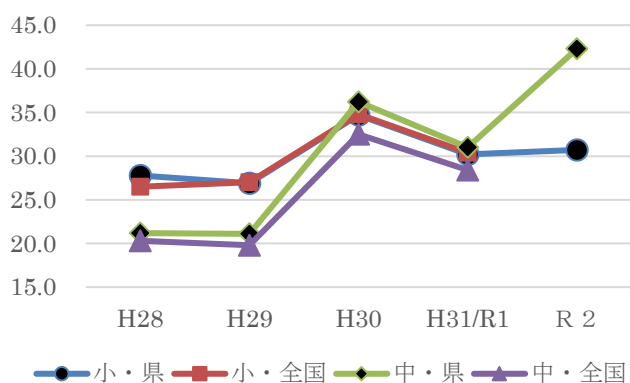
- 2(11) 2(12)：中学校で「よいところを認めてくれていると思う」と感じている生徒が増加している。
 ➡ 児童生徒の自己肯定感を高めていくためには、教員がいつ、どこで、どのように認めていくことが必要なかを吟味・検討していくことが大切である。
- 2(18)：「当てはまる」と回答した生徒が増加しているが、82.6%に留まっている。
 ➡ 全ての児童生徒が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と認識できるよう、具体的な場面を捉えて、継続的・組織的に指導する必要がある。
- 3(20)：中学校で、自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒が大きく増加している。
 ➡ 休校中の「プランニングシート」を改善し活用するなど、主体的に家庭学習に向かうことができる働きかけが行われている。

③(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	①3時間以上 ②2時間以上、3時間より少ない…	小 中 小 中 … …	9.3 13.4 20.8 29.3 … …	12.4 9.9 16.9 25.6 … …	7.8 28.0 17.3 35.1 … …
③(24)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか	①2時間以上 ②1時間以上、2時間より少ない…	小 中 小 中 … …	6.4 5.2 10.8 8.1 … …	7.0 4.8 11.3 7.6 … …	6.8 5.5 10.0 8.6 … …
④(26)	今住んでいる地域の行事に参加している	①当てはまる	小 中	54.3 33.1	37.2 21.0	43.2 21.7
④(27)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	①当てはまる	小 中	19.3 12.8	18.9 11.5	14.3 13.5
⑥(31)	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	①当てはまる	小 中	35.0 35.1	33.0 29.3	29.3 31.0
⑥(34)	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う	①当てはまる	小 中	25.5 22.7	24.7 18.1	21.5 23.5
⑥(37)	学級の友達との間（生徒の間）で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	①当てはまる	小 中	30.2 31.0	30.3 28.3	30.7 42.3
⑦(42)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う	①当てはまる	小 中	35.6 34.7	30.1 25.3	39.0 42.9
⑩(69)	小：これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった 中：これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった	①当てはまる	小 中	— 17.2	— 15.4	33.7 20.1

■注目したい項目

6(37)「学級の友達との間（生徒の間）で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」

7(42)「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う」



6(37)7(42)：話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたり、また、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると考えている児童生徒が増加している。

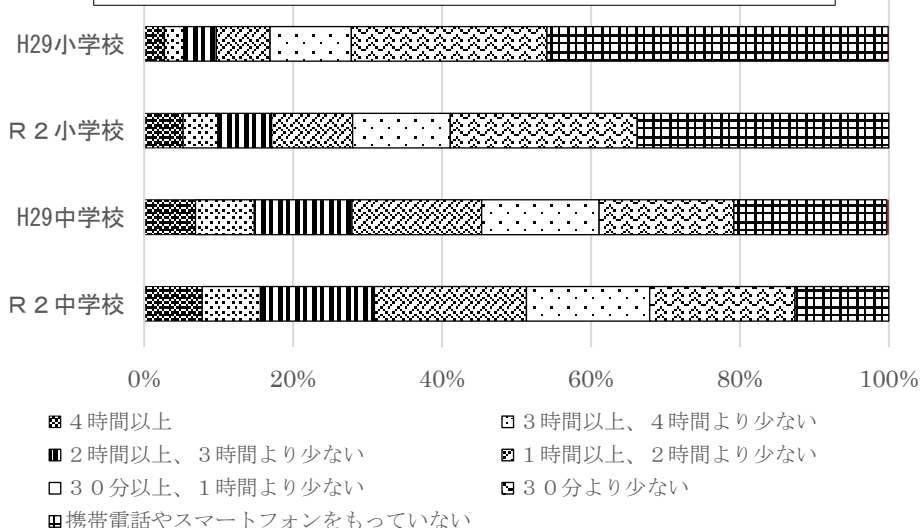
➡ 感染症対策を講じつつ、仲間と意見交流をするねらいを明確にした活動を効果的に位置付けていくことが大切である。

3. 令和2年度調査で新たに加わった（再度加わった）主な項目

令和2 質問番号	質問内容			令和2 年度
				岐阜県
1(5)	家の人と進路などの将来のことについて話すことがありますか	①よく話す	小 中	15.3 33.2
1(6)	携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	①きちんと守っている ⑤持っているが約束はない ⑥持っていない	小 中 小 中 小 中	29.5 22.8 10.2 15.6 34.4 14.5
1(10)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか	①4時間以上 ②3時間以上、4時間より少ない ⑦持っていない	小 中 小 中 小 中	5.2 7.8 4.7 7.8 33.8 12.6
3(23)	学習塾（家庭教師の先生に教わっている場合も含みます）で勉強をしていますか	①学習塾に通っていない ②学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している…	小 中 小 中	54.8 31.1 23.1 21.1
5(30)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか	①3時間以上 ②2時間以上、3時間より少ない… ⑦持っていない	小 中 小 中 小 中	2.6 2.8 2.8 4.6 14.9 4.6
6(40)	授業で、調べたことや考えたことを800字ぐらい（中：1,200字程度）でまとめたことがある	①当てはまる	小 中	26.8 23.3
8(53)	先生は、国語の授業で、自分のできているところや改善できそうなところがどこか教えてくれる	①当てはまる	小 中	37.1 31.9
9(65)	先生は、算数（数学）の授業で、自分のできているところや改善できそうなところがどこか教えてくれる	①当てはまる	小 中	44.9 41.3
10(68)	5年生まで（中：1,2年生のとき）に受けた英語の授業では、英語で（話したり書いたりして、）自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた	①当てはまる	小 中	33.4 34.8

■注目したい項目

1日当たり、どれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



1(10)：平成29年度の調査結果と比較すると、小中学生ともにスマートフォン等の所持率が増加している。

1日当たり2時間以上通話やメール、インターネットをしている小学生は17.1%、中学生は中学校で30.9%となっており、その割合は増加している。

➡ 小学校段階から、家庭と連携して、スマートフォンやタブレットの使い方について約束を決めるとともに、使用状況を把握し適切に支援していくことが必要になっている。

小・中学校 学校質問紙調査

学校質問紙には、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」や「カリキュラム・マネジメント」の推進、「ICTを活用した学習状況」、「小・中学校、家庭や地域との連携状況」など、学校教育において大切したい内容が示されています。また、国語や算数・数学、英語の指導方法についても問われています。本質問内容を職員研修などで取り上げ、自校の教育課程の編成や日々の指導方法を見つめ直すきっかけにして欲しいと思います。

1. 学校規模等 2. 生徒指導等

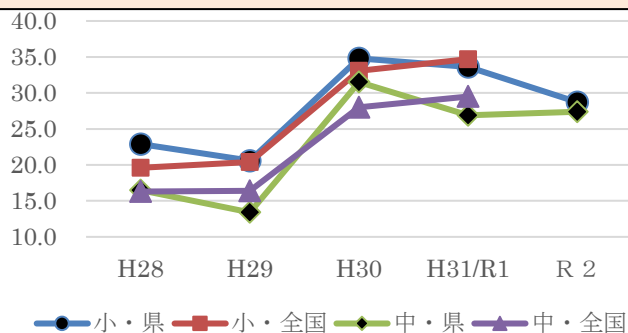
令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(7)	授業中の私語が少なく、落ち着いている		①そう思う	小 中	46.9 69.8	38.8 53.2	64.9 75.3
(8)	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	▲	①よく行った	小 中	18.4 54.4	20.8 49.5	19.5 50.7
(11)	学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った		①よく行った	小 中	72.1 69.2	59.8 55.1	70.7 74.0

3. 学校運営に関する状況

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(12)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している	▲ ▲	①よくしている	小 中	33.6 26.9	34.6 29.1	28.7 27.4
(14)	児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している		①よくしている	小 中	43.9 40.1	37.3 33.9	38.5 41.1
(17)	学校として業務改善に取り組んでいる		①よくしている	小 中	56.9 56.0	48.3 47.4	70.1 57.5

■注目したい項目

(12)「指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している」



(12)➡ 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが重要である。

(17)「学校として業務改善に取り組んでいる」

		よくしている	どちらかといえば、している
小学校	H30	67.1	32.1
	H31/R1	56.9	42.8
	R2	70.1	29.9
中学校	H30	65.2	34.2
	H31/R1	56.0	43.4
	R2	57.5	42.5

(17): 7割の小学校で積極的に業務改善に取り組んでいる。
➡ 「新しい生活様式」を踏まえた教育活動の質の向上を図るために、従来から行ってきた業務を更に改善することが求められている。

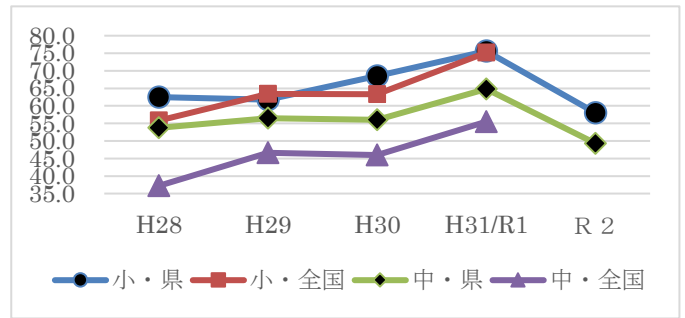
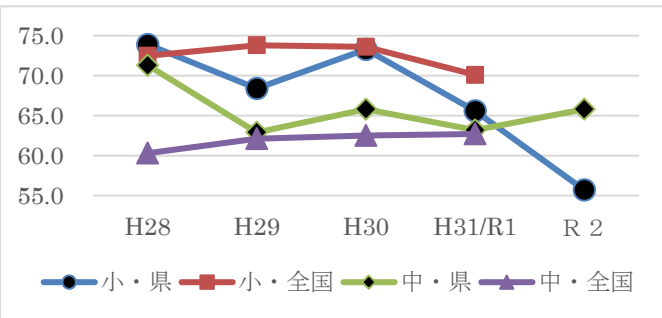
4. 教職員の資質能力の向上

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(18)	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている	▲	①よくしている	小 中	65.6 63.2	70.1 63.2	55.7 65.8
(19)	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている		①よくしている	小 中	75.6 64.8	75.2 56.0	58.0 49.3
(20)	児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	新	①よくしている	小 中	-	-	23.6 32.9

■注目したい項目

(18) 「校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている」

(19) 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」



(18) (19) ➡ 教員が学校を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、自律的かつ継続的に新しい知識や技能を学び続けることができる研修の在り方を模索していく必要がある。

5. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(26)	児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている		①そう思う	小 中	21.4 23.6	16.9 14.5	28.7 31.5
(27)	児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている			新		①そう 思う	14.4 13.7
(28)	児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている			新		①そう 思う	20.7 27.4
(29)	児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている			新		①そう 思う	18.4 23.3
(30)	児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている			新		①そう 思う	47.1 60.3
(31)	授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた			新		①よく行 った	35.1 42.5
(32)	児童（生徒）の発言や活動時間を確保して授業を進めた			新		①よく行 った	60.9 67.1
(33)	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした		①よく行った	小 中	22.8 23.6	22.2 20.8	25.3 34.2

(34)	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	▲ ▲	①よく行った	小 中	13.6 13.7	18.1 14.5	21.3 20.5
(35)	知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れた					新	①よく行った 13.8 16.4
(36)	総合的な学習の時間や各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字(1200字)程度で児童(生徒)にまとめさせたことがあった					新	①よく行った 13.8 12.3
(37)	調査対象である第6学年(第3学年)の児童(生徒)に対する指導に関して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか					新	①週に1回程度またはそれ以上 13.2 9.6

■注目したい項目

(27)(32)：6割を超える学校で、児童生徒の発言や活動時間の確保を行っている。一方で、児童生徒が、自らの考えがうまく伝わるよう工夫していると捉えている学校は2割弱となっている。

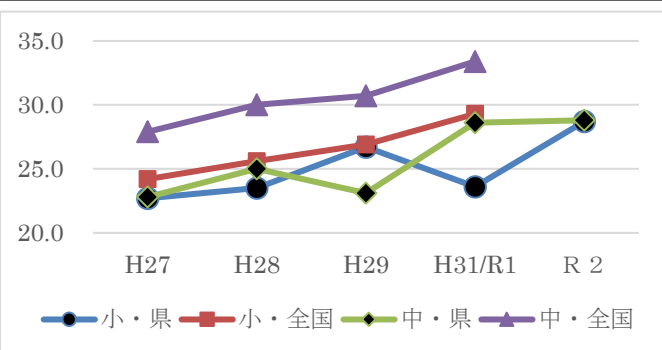
➡ 相手に伝える力(例えば、資料や文章、話の組立てなどを工夫して話す)を高めるために、一人一人の状況に応じた意図的な指導が必要である。

6. 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(38)	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている	▲ ▲	①よくしている	小 中	23.6 28.6	29.1 32.7	28.7 28.8
(39)	学級生活をよりよくするために、学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている		①よくしている	小 中	46.6 62.6	40.2 36.8	54.6 64.4
(41)	特別の教科 道徳において、児童(生徒)自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	▲ ▲	①よくしている	小 中	36.9 30.2	40.2 38.6	42.5 46.6

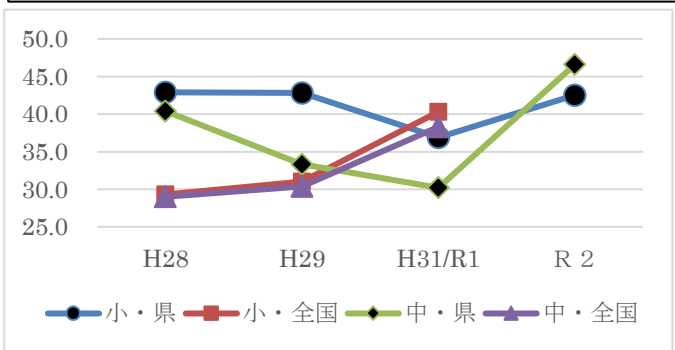
■注目したい項目

(38)「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」



(38)：探究の過程を意識した指導をよくしていると回答した学校は、3割弱に留まっている。
➡ 活動先行ではなく、探究の過程を意識した学習計画となっているか吟味する必要がある。

(41)「特別の教科 道徳において、児童(生徒)自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている」



(41)：考え、話し合うような指導をよくしていると回答した学校は4割を超え、中学校で増えている。
➡ 多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるように言語活動を充実させることが大切である。

7. 学習評価

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	回答	令和2 年度
			岐阜県
(42)	児童（生徒）のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにした	新	①よく行った 42.5 47.9
(43)	創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教師間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をした	新	①よく行った 29.3 37.0
(44)	授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童（生徒）に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた	新	①よく行った 69.0 65.8

■注目したい項目

(43)：学習評価について、校内で組織的かつ計画的な取組をよく行ったと回答した学校は、小学校で3割弱、中学校で4割弱に留まっている。

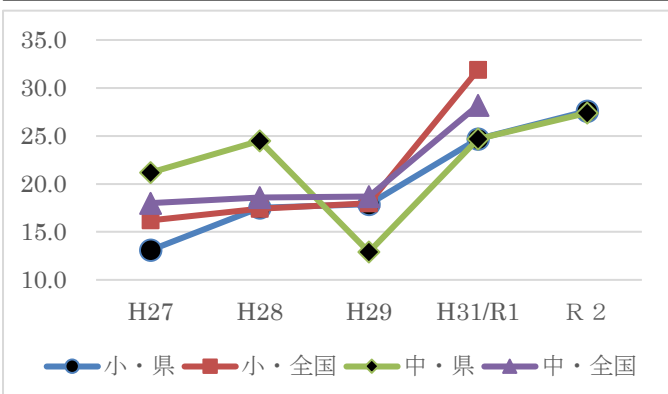
➡ 県教育委員会や国立教育政策研究所が発行している「評価の手引」等を活用した校内研修が必要である。

8. 国語科の指導方法

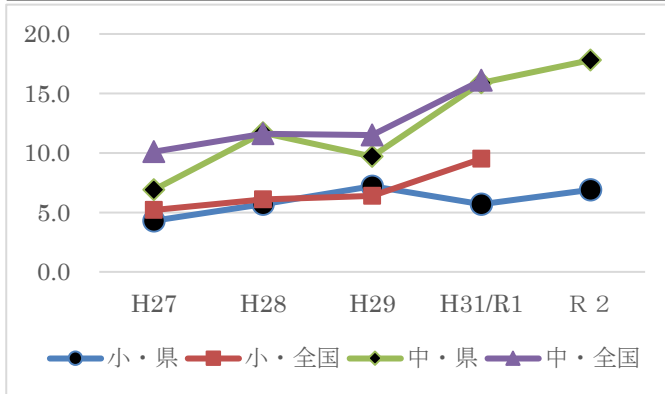
令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(45)	補充的な学習の指導	▲ ▲	①よく行った	小 中	24.7 24.7	31.9 27.8	27.6 27.4
(46)	発展的な学習の指導	▲	①よく行った	小 中	5.7 15.9	9.2 15.1	6.9 17.8
(47)	言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業						27.0 39.7
(48)	目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業						31.0 38.4
(49)	小：目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり書き表し方を工夫したりする授業 中：目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業						26.4 49.3
(50)	小：目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業 中：目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業						30.5 57.5

■注目したい項目

(45) 「補充的な学習の指導」



(46) 「発展的な学習の指導」



(45)(46)：国語科における「補充的・発展的な学習の指導」は、小中ともに増加している。

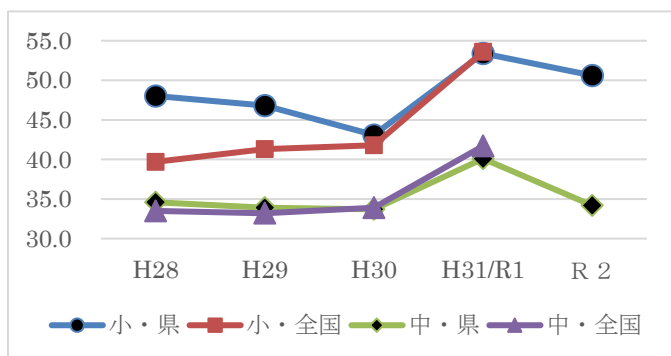
➡ 引き続き、一人一人の学習状況に見届け、個に応じた指導の充実を図っていくことが大切である。

9. 算数（数学）科の指導方法

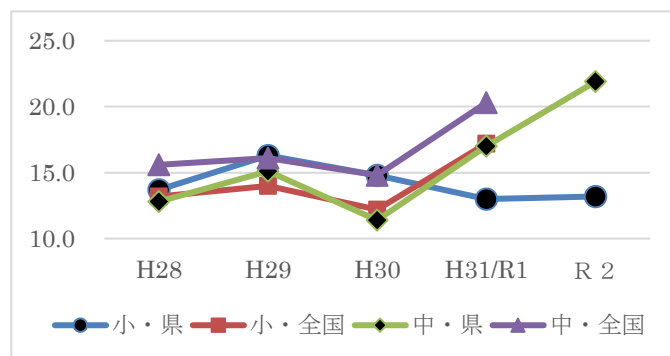
令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(51)	補充的な学習の指導	▲ ▲	①よく行 った	小 中	53.4 40.1	53.7 41.5	50.6 34.2
(52)	発展的な学習の指導	▲ ▲	①よく行 った	小 中	13.0 17.0	16.9 19.1	13.2 21.9
(53)	実生活における事象との関連を図った授業	▲	①よく行 った	小 中	8.9 16.5	16.5 15.2	11.5 15.1
(54)	小：具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動 中：観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動					新 ①よく 行った	36.8 24.7
(55)	小：公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していた 中：公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していた					新 ①よく 行った	47.7 53.4
(56)	問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導					新 ①よく 行った	42.0 38.4

■注目したい項目

(51) 「補充的な学習の指導」



(52) 「発展的な学習の指導」



(51)(52)：昨年度、算数・数学の「補充的な学習の指導」をよく行った学校が増加したが、今年度は減少している。「発展的な学習の指導」については、中学校で増加している。

➡ 臨時休業等により、学習に不安を抱えている児童生徒がいることが推測される。一人一人の状況に応じて「補充的な学習」を行い、学習に対する不安の解消に努めることが大切である。

10. 英語の指導方法

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	回答		令和2 年度
				岐阜県
(57)	小：調査対象である第6学年の児童に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか。 中：調査対象である第3学年の生徒に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で話したり書いたりして、生徒自身が互いの考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか。	新	①よく 行った	44.8 65.8
(58)	小：学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会などを十分に設けていますか。 中：全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実などの授業改善や、定期考査問題やパフォーマンステストの改善などの学習評価の改善に取り組んでいますか。	新	①当て はまる	23.0 46.6

1 1. ICTを活用した学習状況

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(59)	教員が、1クラス当たり、大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業		①ほぼ毎日 ②週1回以上	小 中	39.3	37.1	59.8
					41.7	43.7	33.9
					47.3	43.3	56.2
					35.7	37.5	26.0
(60)	児童（生徒）が、コンピュータなどのICT機器を使用した授業		①ほぼ毎日 ②週1回以上	小 中	—	—	16.1
							23.0
							9.6
							34.2

1 2. 特別支援教育

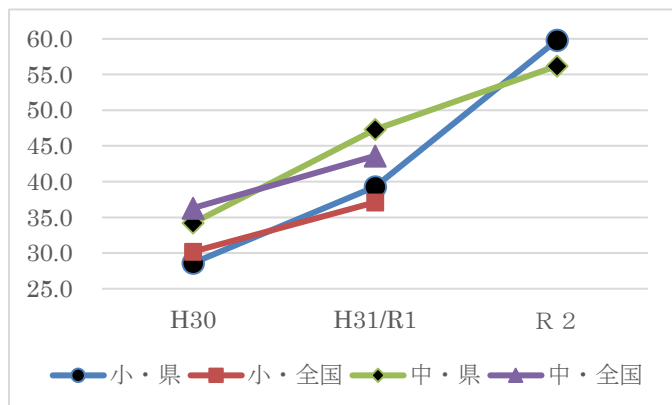
令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(61)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象である第6学年（第3学年）児童（生徒）に対する授業の中で、児童（生徒）の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか	▲	①よく行った	小 中	39.3 43.4	40.1 38.8	39.7 45.2

■注目したい項目

(59) 「教員が、1クラス当たり、大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業」
「ほぼ毎日」と回答した学校

(60) 「児童（生徒）が、コンピュータなどのICT機器を使用した授業」
「ほぼ毎日」と回答した学校

■小学校：16.1%
■中学校：9.6%



(59)：教員がICT機器を活用した授業については、年々増加している。

➡ 教室のICT環境の整備及び令和2年度内に一人一台端末が配布されることから、ICT機器の有効活用が各学校の課題となる。

各教科等におけるICT活用の在り方を明らかにし、令和3年度においては、全ての学校において「ほぼ毎日」教員がICT機器を活用した授業が進められ、学びの質を向上させることが必要である。

(60)：児童生徒がICT機器を活用した授業については、「ほぼ毎日」活用したと回答した学校は、小学校で約16%、中学校で約10%に留まっている。

➡ 令和2年度内に一人一台端末が配布されることから、タブレット等を活用した新たな学習を進めていくことが可能となる。

各教科等におけるICT活用の在り方を明らかにし、教員のみならず児童生徒も「ほぼ毎日」ICT機器を活用した学習を進め全ての児童生徒が学ぶ意義や楽しさを実感できる授業を展開することが必要である。

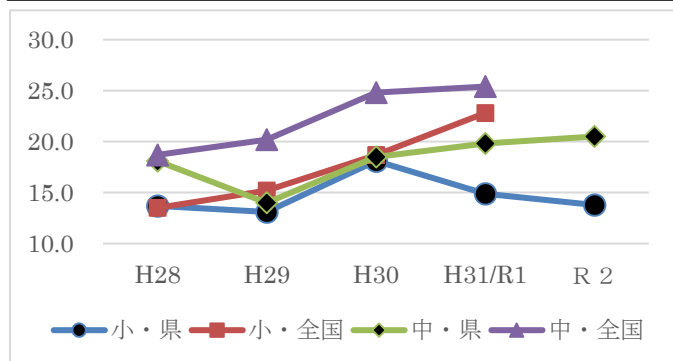


1 3. 小学校教育と中学校教育との連携

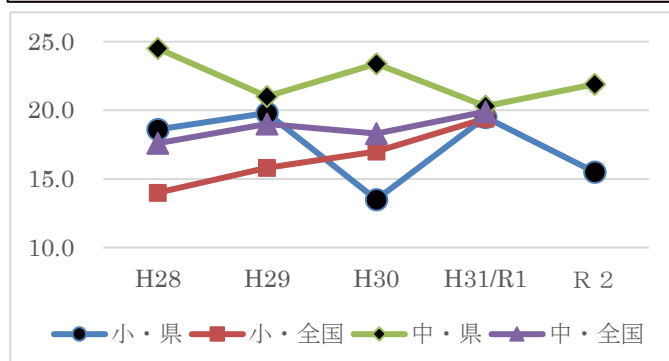
令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(62)	前年度までに、近隣等の中（小）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った	▲ ▲	①よく行った	小 中	14.9 19.8	22.8 26.1	13.8 20.5
(64)	平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中（小）学校と成果と課題を共有した	▲ ▲	①よく行った	小 中	19.5 20.3	19.6 20.7	15.5 21.9

■注目したい項目

(62)「前年度までに、近隣等の中（小）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った」



(64)「平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中（小）学校と成果と課題を共有した」



(62)(64)：教育課程に関する共通の取組を行ったり、全国学力・学習状況調査の成果と課題を共有したりすることについて、「よく行った」小学校で約15%、中学校で20%に留まっている。

➡ 小中9年間を通じて育成を目指す資質・能力を明確化し、9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成し、小学校と中学校とで一体的な教育内容と指導体制を確立することが求められている。

1 4. 家庭や地域との連携等

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国 比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(65)	職場見学や職場体験活動を行っていますか	▲	①行っている	小 中	49.6 99.5	57.3 99.0	47.1 97.3
(66)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか		①よくしている	小 中	35.0 31.9	28.1 25.3	31.6 37.0
(67)	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか		①よく参加している	小 中	72.1 50.0	64.6 38.2	67.8 41.1
(68)	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(67)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか		①よく行った	小 中	42.3 30.2	39.1 24.7	52.9 39.7

1 5. 家庭学習

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(70)	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図る		①よく行った	小中	56.4 45.1	47.0 36.9	53.4 37.0
(71)	家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える		①よく行った	小中	62.6 50.0	49.9 38.9	63.2 42.5
(72)	家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）が行った家庭学習の課題について、その後の教師の指導改善や児童（生徒）の学習改善に生かす	新	①よく行った	小中	— —	— —	29.9 26.0

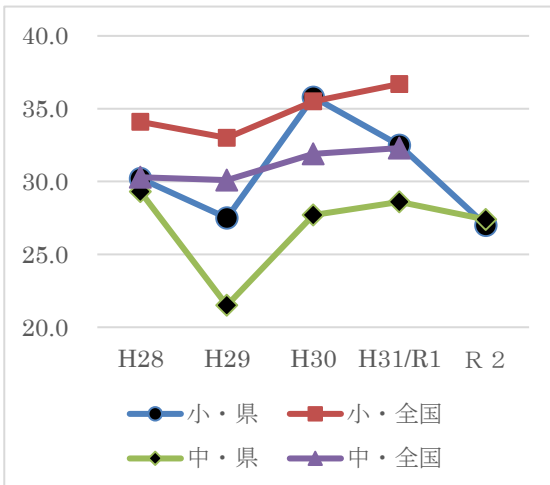
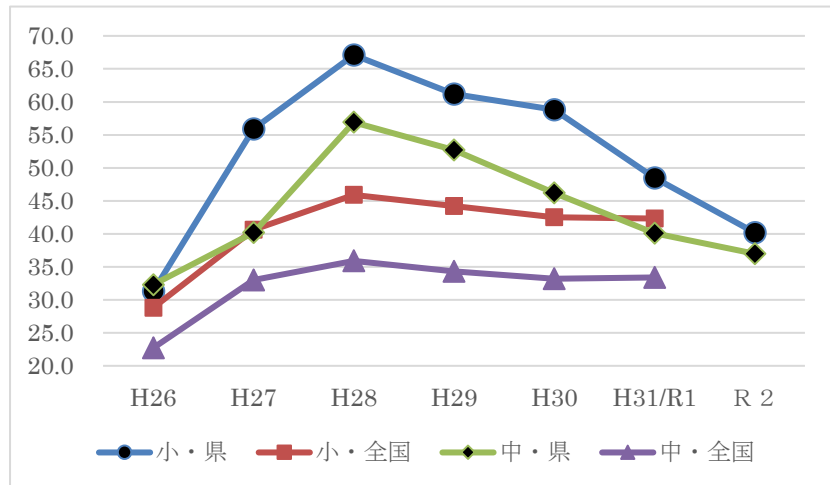
1 6. 調査結果の活用

令和2 質問番号 ※小中同じ	質問内容	全国比	回答割合		平成31年度		令和2 年度
					岐阜県	全国	岐阜県
(73)	平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した		①よく行った	小中	48.5 40.1	42.5 34.5	40.2 37.0
(74)	平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含みます）	▲ ▲	①よく行った	小中	32.5 28.6	36.9 33.5	27.0 27.4

■注目したい項目

(73)「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」「よく行った」と回答した学校の割合

(74)「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った」「よく行った」と回答した学校の割合



(73)(74)：全国学力・学習状況調査の結果の活用や、保護者等への公表や説明について「よく行った」と回答した学校の割合が減少傾向にある。

➡ 調査結果を活用し、全ての教科・学年において授業改善を進めるとともに、保護者等に対して説明し、連携して児童生徒の学習をサポートしていくことが重要である。特に、今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い児童生徒の学力について不安を感じている方が多いことから、令和3年度の調査結果についてはきめ細かく分析し、指導の改善につなげていくことが重要となる。